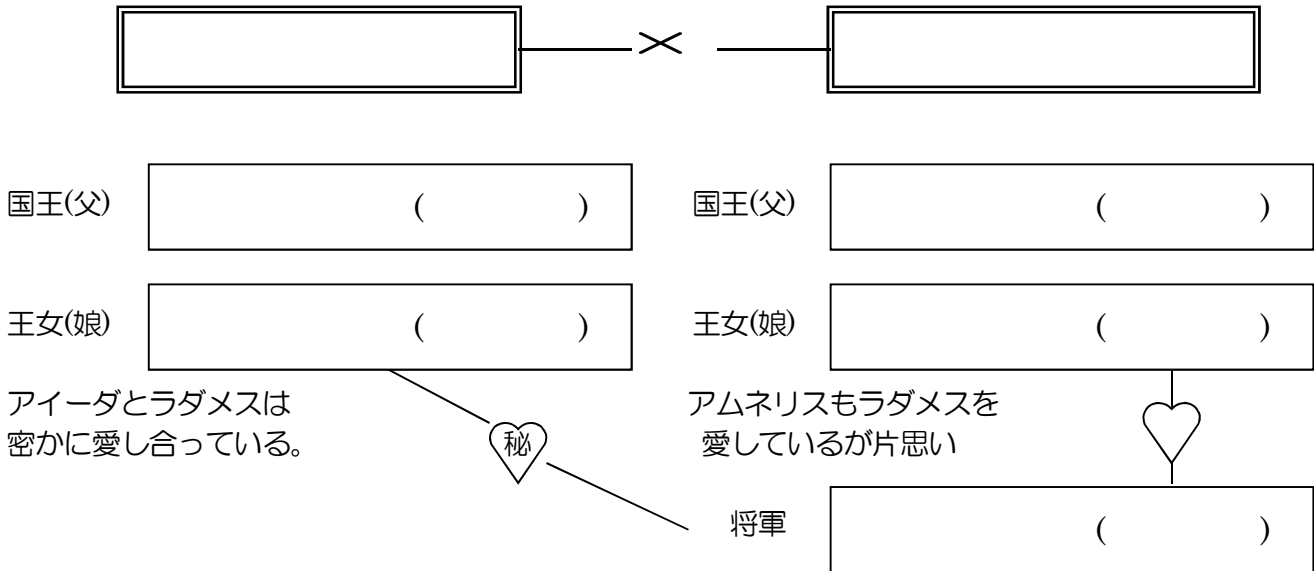


歌劇 『 』

3年 組 番

主な登場人物

エチオピアは強大なエジプトとの戦いに敗北を重ねながらも、独立のために戦おうとしている。アイーダはエチオピアの王女だが、この2つの国の戦いで囚われて、奴隷の身になっている。そして、自分の身分について秘密のまま、エジプトの王女アムネリスに仕えている。



《第1幕・第1場》

祭司長ランフィスがラダメスに「再びエチオピアと戦争になる。神は我がエジプト軍の将軍になる男の名前をお告げになったぞ。(その名はあとでわかる)」と話す。

その話を聞いたラダメスは「もし自分が将軍になったら愛するアイーダに故国を返して、幸せにしてあげたい。君は私の命の輝きだ。」と愛するアイーダを想って歌う

『 』



《第1幕・第2場》

～ 出陣の場 ～

エジプト国王のもとに家来が集められ、国王がラダメスを指揮官(総大将)に命じ、一同は「勝って帰れ」と励まし、送り出す。

一人残ったアイーダは「勝って帰れとは、父と恋人を戦わせること。」と苦しみ悩む心を歌う。

『 』

歌劇『アイーダ』 NO2

3年 組 番

《第2幕・第1場》

凱旋式の前にアムネリスはアイーダのラダメスへの思いを確かめるために、わざと優しくなくさめ、「でも、神は不公平ではないわ。ラダメスが死んだのだから。」と嘘を言う。その言葉に悲しむアイーダを見て、「今のはうそ。彼は生きているし、彼は私のものよ。奴隷のお前が王女の私と争うなら、お前は死ぬ」とおどす。

場 面	感じたこと・気づいたこと	
	歌	オーケストラ
① アムネリスがアイーダの母国エチオピアがエジプトに負けたことで、「私はお前の友達だから、なんでもあげる。ここで幸せに暮らせばいいのよ。」となくさめる。		
② 「親や兄弟の安否もわからないのに幸せになんて暮らせません。」とアイーダは悲しみを訴える。		
⑩ 「どうか私の苦しみをわかってください。確かに私はラダメスを愛しています。あなたは力もあり、幸せです。でも、私はこの恋だけに生きているのです。」とアイーダは苦しみの心を訴える。		
⑪ 「苦しめばいい。お前は奴隷女だから、この恋を押し通せば私の一存で死ぬかもしれない。」と脅す。		

《第2幕・第2場》

～ 凱旋の場 ～ 「アイーダ」の中で最も壮大な場面

エジプト軍の凱旋を祝う

『

』を民衆が歌い、

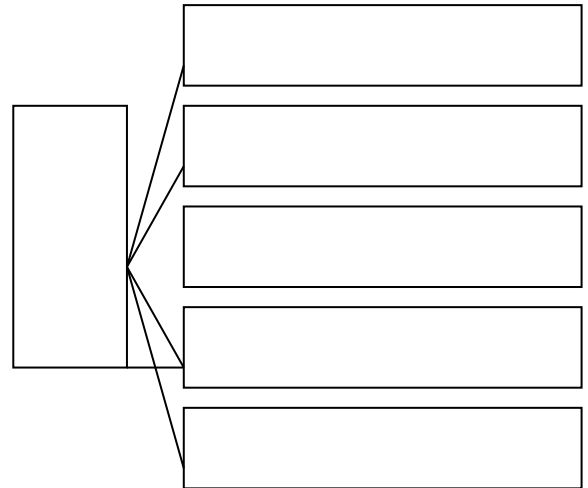
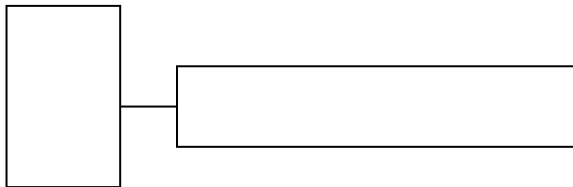
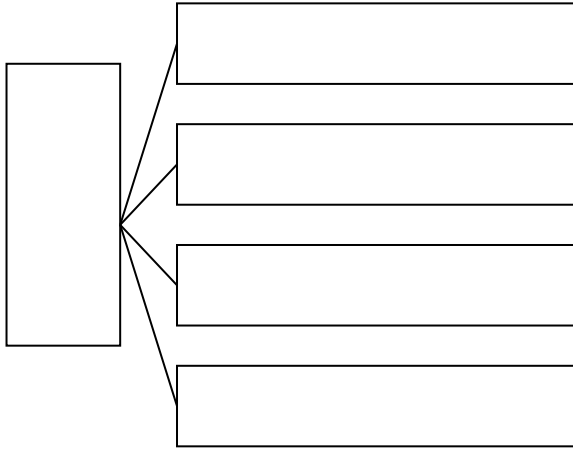
行進曲とともにラダメスとエジプト軍が帰ってくる。

歌劇『アイーダ』 第2幕第1場

アムネリスとアイーダの会話の場面

- ① アムネリスがアイーダの母国エチオピアがエジプトに負けたことで、「私はお前の友達だから、何でもあげる。ここで幸せに暮らせばいいわ。」とアイーダをなぐさめる。
- ② 「親や兄弟の安否もわからないのに、幸せになんて暮らせません。」とアイーダは悲しみを訴える。
- ③ アムネリスは「悲しみは時が慰めてくれます。そして、時だけではなく、恋も慰めてくれるでしょう。」と同情の言葉をアイーダにかける。
- ④ アイーダはアムネリスの言葉を聞いて、今は恋だけが生きる証だと、恋の喜びを思う。そんなアイーダの様子を見て、アムネリスはアイーダが誰かに恋していることを確信し、それが誰なのか気になる。
- ⑤ 「あなたの悩みを聞かせて。エジプトの兵士の中に恋人がいるの？神は人に平等よ。エジプト軍の総大将(ラダメス)が死んだのだから。」と嘘を言ってアムネリスはアイーダの本心を探る。
- ⑥ その言葉を聞いてアイーダは激しく動揺し、悲しむ。アムネリスは「なぜ自分の敵の総大将が死んだのに喜ばないの。」と責める。
- ⑦ アムネリスはアイーダがラダメスを愛していることを確信し、さらに本心を聞き出そうと、自分が嘘をついたことをアイーダに言う。
- ⑧ ラダメスが活着していることを知って、アイーダは喜ぶ。その様子を見て、アムネリスは嫉妬心をむきだしにし、「お前はラダメスを愛している。でも、私も彼を愛している。ファラオ(エジプト王の通称)の娘である私はお前のライバルよ。」と言う。
- ⑨ アイーダはアムネリスの言葉に対し、自分の立場を忘れて、「ライバルというなら、私だって・・・」と言い返すが、アムネリスにぶたれてしまう。
- ⑩ 「どうか私の苦しみをわかってください。確かに私はラダメスを愛しています。あなたは力もあり、幸せです。でも、私はこの恋だけに活着しているのです。」とアイーダはアムネリスに訴える。
- ⑪ アムネリスは「苦しめばいい。お前は奴隷女だから、この恋を押し通せば、私の一存で死ぬかもしれない。」とアイーダを脅す。

オペラ(歌劇)とは？



これらが一体となった

である。

オペラとは・・・

() を中心にして () で () を進めていく ()

♪歌劇『アイダ』を鑑賞し、歌劇(オペラ)の魅力がどんなところだと思うか。あなたの考えを書いてください。なぜそう思うのか、理由も書いてください。

歌劇『アイーダ』 NO3

《第2幕・第2場》

連れてこられた捕虜の中に、アモナスロがいて、アイーダは親子の再会を果たす。アモナスロは国王は死んだと嘘をつき、戦争に負けた悔しさを歌う。

アモナスロがエチオピアの国王だと知らないラダメスはアイーダ親子の命を助けてほしいとエジプト国王に頼み、エジプト国王はその頼みを受け入れる。勝利のほうびとして、娘のアムネリスと結婚し、将来はエジプトの国を治めるように言う。その言葉にアイーダは悲しみ、ラダメスは困惑し、アムネリスは喜びそれぞれがその気持ちを歌う。

《第3幕》

アモナスロはアイーダに「ラダメスから軍の秘密の抜け道を聞き出せ。」と命令する。しかし、それを拒否をしたアイーダと言い合いになる。そこへラダメスがやってきたので、アモナスロは隠れる。

「僕はアムネリスではなく、必ず君と結婚する。」と言うラダメスに対し、アイーダは「2人が幸せになるために、このエジプトから逃げましょう。」と逃亡を提案する。逃亡に弱気なラダメスにアイーダは「じゃあ、アムネリスと結婚しなさい。もし、私と結婚すれば、私たち親子は殺される。」と強く迫る。そこで、ラダメスは逃亡を決意する。逃亡を決意したラダメスからアイーダは軍の秘密の抜け道を聞き出す。それを聞いていたアモナスロが姿を表し、ラダメスは国を裏切った罪悪感に苦しむ。その3人の様子がアムネリスに見つかり、アイーダとアモナスロは逃亡。ラダメスは捕らえられる。

《第4幕》

ラダメスの裁判が行われ、アムネリスは外で裁判の様子を聞いている。ラダメスが全く弁明をしないので、死刑(神殿の地下にある牢に、飲まず食わずで入れられる。)が確定する。ラダメスが死刑になることを予想して、地下牢に先回りして待っていたアイーダとラダメスが再会する。この世でかなわなかった2人の愛を天国で実らせることを夢見て、2人は死んでいく。アムネリスは神殿でラダメスの冥福を祈る。

◆授業で学習したオペラの特徴をとらえ、オペラの魅力はどのようなところなのかを書いてください。
